



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
4/13 (月)	+ 400	▲ 5,900	▲ 5,500	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 +1,300 社債等買入 ▲300		日: 植田日銀総裁が信託大会であいさつ 米: 国際通貨基金と世界銀行が春季会合を開催
4/14 (火)	トン	▲ 6,000	▲ 6,000	源泉税揚げ			日: 鉱工業生産 (2月)
4/15 (水)	▲ 1,000	+ 71,000	+ 70,000	国債発行 (20年) 国債発行償還 (個人) 年金定時払い	共通担保 ▲ 8,000		米: ポウマンFRB副議長の講演 ページブックの公表 欧: ユーロ圏鉱工業生産 (2月)
4/16 (木)	トン	+ 6,000	+ 6,000				米: 鉱工業生産 (3月) 欧: ユーロ圏CPI (3月)
4/17 (金)	トン	▲ 5,000	▲ 5,000	流動性供給			

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1,900億円増加の457兆300億円から始まった。その後、国債発行や国債買入オペ等の要因で増減し、10日は455兆8,500億円 (速報) で越週した。
無担保コールON物加重平均金利は週初、0.727%から始まり、その後も概ね横ばいで推移した。
ターム物は1W~3W物0.729%~0.860%のレンジ、1M~3M物0.850%~1.050%のレンジで出合が見られた。
来週の予定は、国内では13日に植田日銀総裁の信託大会でのあいさつ、海外では15日にページブックの公表、16日にユーロ圏CPI (2月)の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ~ 0.729
1M	0.83 ~ 0.95
2M	0.95 ~ 1.10
3M	1.00 ~ 1.15
6M	1.10 ~ 1.40

<レポ>

足許GCは週を通して0.75%~0.755%の狭いレンジでの出合いとなった。買入れオペや短国の発行等の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。
SC取引は2年470~482回債、5年155~183回債、10年356~372、378~381回債、20年110~130回債、30年86~89回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.70台
CP 3M	1.0 ~ 1.2

<CP>

今週の入札発行総額は約9,595億円で、週間償還額の5,410億円を上回った。発行残高は、先週末時点の21兆4,708億円から、4月9日時点で22兆317億円へと増加した。発行市場では、卸売業・電気機器・その他金融業をはじめとする幅広い業種で、期明けの調達再開に伴う大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.80%台から1.0%台、3ヶ月物で1.0%程度から1.1%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆3,800億円となっている。発行市場は、期明けの調達再開が本格化し、引き続き発行超が見込まれる。発行レートは、日本銀行が利上げを継続する姿勢を示していることに加え、中東情勢が一定の落ち着きを見せていることから、引き続き水準を探る展開が続くだろう。

<TDB>

9日の6M (第1373回債) の入札は、最高落札利回り0.9524% (前回債0.8726%)、平均落札利回り0.9464% (前回債0.8626%) となった。
10日の3M (第1374回債) の入札は、最高落札利回り0.8823% (前回債0.8823%)、平均落札利回り0.8710% (前回債0.8738%) となった。
来週の入札は16日に1Y、17日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。